

令和7年度 第1回学校運営協議会

出席者:西川 隆蔵委員長・品川 隆一委員・遠藤 真砂美委員・八木 元明委員・染川 佳紀委員
校長・教頭・首席

- (1)校長挨拶
- (2)学校運営協議会委員の紹介
- (3)学校経営計画と取り組みについて、および本校の現状報告と今年度の取組について

<校長より> パワーポイントスライド(動画)をまじえて説明

■2024 年度 進路状況・合格者数

☐ 大学を希望する生徒が多く、また、看護の道を志す生徒が一定数いる。看護については、看護専門学校より、看護系の大学を希望する生徒が今年は多かった。

■スクールデザインの進捗報告

- ☐ 少子化の時代において、総合学科としての堺東高校のスクールポリシー(主体的に学び、仲間と学び、夢に向かってチャレンジする)を明確に打ち出す必要がある
- ☐ スクールキャッチの決定「夢が見つかる、自分が見つかる。」(元電通クリエイター 現大阪芸大教授より複数提案をうけ、生徒が投票して決定)
- ☐ 「夢」の言語化・定義づけを明確にするための「夢について」講演をいろは出版のきむ氏に依頼・実施
- ☐ DX ハイスクール指定校に選ばれたこと(2年目)により、帝塚山学院大学とも連携して、マルチメディアルームを整備・拡充する
- ☐ DX 予算を活用した、生成型 AI の活用(教員に対し、みながく社「スクール AI」の導入)
- ☐ 大阪人間科学大学と連携した、アントレプレナーシップ醸成を見据えた「探究的な活動の時間」の支援
- ☐ 看護師を目指す生徒にむけた、藍野短大との高大連携
- ☐ 「生徒が主導する SNS 広報指定校」指定をうけ、大阪芸大や DOROPRO 社との協業で写真同好会による学校行事動画の作品を作成
- ☐ 人権講演会(盲目のシンガーソングライター・佐藤ひらりさんによる歌唱演奏・講演)および本校軽音楽部とのコラボレーション演奏の実現
- ☐ 自分を知る・自分軸を作る・”じぶんごと”にするための3ステップの導入を行うため、ベネッセ社「自分らしさデザイン」プログラムの導入

■令和10年度以降の入学者選抜「学校特色枠」入試

- ☐ 現1年生の府立高校入試から制度が変更される。
- ☐ 新しい制度は、各校が求める人物像に合致する生徒を10～50%の枠で合格とし、次に総合点による学力での合格を決定する。

■堺東高校の「学校特色枠」入試

□自分の興味・関心を深めるために、主体的に学習や課外活動に取り組むことができる生徒

①特に、特定の「国語」「美術」など、好きな教科での頑張りを高校でも期待できる生徒

②特に、「看護・医療系」「IT・情報系」などの自分自身の進路実現に向かって主体的な取り組みを期待できる生徒

③特に、「クラブ活動」「校外活動」など自分の得意な分野について主体的な取り組みを期待できる生徒

上記①～③の生徒に向けて面接を実施する(各10%を上限とする定員)

□総合点ではなく、特定の分野(教科・夢や進路・課外活動など)で力を発揮する生徒が総合学科である堺東高校として、適性が高いのではないか。自分の努力や成果をアピールできる生徒を面接によって採用したい、と考えている。

(4)質疑応答・情報交換

■品川委員 今回の運営協議会報告は、堺東高の重視する方針がよくわかる内容であった。DX や ICT、AI など社会に求められていること、子どもが社会で生きていくために必要なことが書かれているのではないか。入試については、中学校に在籍する多様な生徒の選択肢を増やしてくれる制度になっている、と感じた。入試の面接では、どういう形態でおこなうのか、は決まっているのか。

□校長 面接の詳細はこれから決定する。過去、前期試験の時代には堺東高校では面接を行っていた実績があるので、過去の蓄積を参考にしながら決定していきたい。

■品川委員 入試対策を中学校がどう行つか、については様々な意見がある。だが、入試の機会をとらえて、自分をどう表現するか、を勉強することそのものは悪いわけではないと思う。また、入試対策することで高校でのミスマッチも防ぐことができる。堺東高校がもとめる姿を、中学校側にも明確にわかるようにしてほしい。

■八木委員 堺東高校のやっている取り組みとしては、熱心さが感じられる。堺東高校以外の高校と比較しての取組状況はどうか。

□校長 設備については私立他校と比べても残念な面があるが、予算の制約上いかんともしがたい部分である。ソフト面としては、総合学科としての学校設定科目「映画英語」「スペイン語」など、やはり普通科とは違う部分において、堺東高校の強みがあるように思う。

■八木委員 スクール AI とはなにか

□首席 ChatGPT の有料版を教育カスタマイズしたものである。今年度は教員用に購入し、生成 AI のための勉強会を定期的で開催している。

■遠藤委員 授業の入り込みをさせてもらっているので、授業の様子がある程度見える。自立支援生も楽しみながらやっている、というのが印象的であった。入試については、自立支援生についてどうなっているのか。

□校長 現在は自立支援コース3名となっているが、これは大阪府が決定するものであり、現状では、未決定な部分が多い。自立支援コース生の入試については、現在丁寧な面接入試を行っているが、変更の指示は教育庁から来ていない。

■染川委員 学校の取組みについて、学校説明会でのアナウンスの重要性が高まっている。どうプレゼンするかが大事であるように思う。あつというまにすぎる説明会、というものにしてもらいたい。入試について、エントリーシートより面接のほうがよい、と思う。また面接の準備練習を、中学校側が行うのも中学生の成長にとって良いことである。ただ中学生にとって負担になることも想像されるので、「中学生にとって準備しやすい・わかりやすい。負担に感じない」しくみやアナウンスが必要であると思う。また、入試定員で記載されている10%・10%・10%の定員について詳しく知りたい。

□教頭 10%・10%・10%にわけたのは、中学生から見てわかりやすいものにするためである。また、採用する側として、入試を3種類に分けたほうが評価する際に明確になると考えた。

■西川委員 「夢が見つかる、自分が見つかる。」のフレーズはとてもよい、と感じた。進路や科目選択を考える機会が多い堺東高校では、自分で自身の成長を実感できるような、自身の行動を内省できる振り返りの機会をもうけることも大切であるように思う。高校から、中学校のOBとして高校生が派遣され、彼らがプレゼンテーションを行うのも面白いのではないか。入試について、面接の評価をどういう軸で行うかが気になる。何を聞かれるかわからない状況で面接に望む、というかたちは、不安要素が大きいと思われる。

(5)連絡事項

■次回以降の開催について連絡

(6)閉会